

鎮守堂ガイドマニュアル 2026

本尊：宇賀（うか or うが）弁財天女坐像 室町時代作（秘仏）

女性の庇護・救済に力を尽力される仏さま。

木造・寄せ木造り、彩色仕上げ

福德豊穰の宇賀神と才智を掌る弁財天、神と仏が習合した日本独自のお姿。頭上に鳥居型宝冠と宇賀神（老人の顔に体は蛇）をのせ、八臂（はっぴ）（八本の腕）を持つ。八本の腕には、それぞれ「武器」と「財宝」の象徴を持つ。

① 鍵 ② 輪宝 ③ 弓 ④ 宝珠 ⑤ 刀 ⑥ 矢 ⑦ 宝棒

⑧ 三股戟（さんさげき）＝三叉槍（さんさそう・3つまたの槍）

想定Q & A（例）

Q（参拝者に質問）

一番大切な物は？ 答（例）：鍵

A（あなたの回答とその理由 例）

- ・夢に向かって、努力する。しかし、必ず立ちはだかる壁がある。そんな時に手を合わせる。すると乗り越えることできなかった壁を開けてくださる。一步前進できる。
- ・ドラえものの「どこでもドア」を開ける鍵です。

元々不空院の「鎮守神」として、鎮守社に祀られていた。

鎮守社が失われ、本堂にお祀りされていたが、2022年に「鎮守堂」が建立され、新しいお堂の本尊として、お祀りされている。

厨子の右と左に安置されている妙音天女像は、弁財天の異名。聖徳太子像は不空院再建以来の護持と伝わることから、一緒にお祀りされている。

厨子入り「宇賀弁財天像」のお前立（まえだち＝本尊の代わりに常時拝観できる像）は、本堂の「春日山」の額の銘にあった「藤基弘」氏（九条家に生まれ二条家に養子、春日大社第2代宮司、正二位）の念持仏。

内陣の天井には、「九会（くえ）花曼荼羅図」（この境内に四季折々に咲く花）、左右には、百万塔が配置されている。

ご参拝いただいた皆さまに、宇賀弁財天さまのご加護がありますように。

ありがとうございました。

※注意事項

- ・奈良まほろばソムリエの会の定点ガイドは、基本的には本堂後ろの鎮守堂の「宇賀弁財天坐像」の説明を担当します。
- ・まず、鎮守堂の拝観券を確認してください（目視のみで結構です）。
- ・お客さんの荷物は、鎮守堂の中に置いてもらってください（盗難防止のため）。
- ・鎮守堂の扉は、開放したままにしないでください（外から見えないよう、その都度閉めてください）。
- ・まずは拝んで（手を合わせて）いただいてから、説明を始めてください。
- ・他の寺社などの話は、説明に必要な必要最小限度にとどめてください。

（ご参考）**女人救済の宇賀弁財天女 不空院（奈良市）**

（毎日新聞奈良版「やまと百寺参り」2020.8.27 付）

春日山（しゅんにちさん）不空院は、鑑真和上や弘法大師空海が止住（しじゅう）したと伝わる古刹です。本尊・不空羅索（けんさく）観音坐像は、東大寺法華堂や興福寺南円堂のものとともに奈良の「三大像」の一つとして有名です。

「不空院古絵図」に描かれていた本堂・八角円堂は、江戸時代後期、安政の大地震で倒壊しましたが、大正時代、三谷弘巖・先々代住職がその礎石の真上に現在の本堂を再興しました。

古絵図の弁財天社に祀（まつ）られていたのが、室町時代の秘仏・宇賀（うが）弁財天女坐像です。女人の救済と庇護に靈験あらたかな仏さまで、別称「福院」といわれるほど信仰を集めました。

頭上に宇賀神を乗せた典型的な神仏習合の姿で、八本の腕に武器と財宝の象徴を持っているのが特徴です。

2026 年に大正再興 100 年を迎えるにあたって、本尊左の厨子内に祀られている弁財天像のお堂を整備することを三谷真漣（しんれん）・現住職が発願し「鎮守堂」の建立準備に入りました。

毎年 9 月第 1 土・日曜日には、弁財天に音楽や舞踊を楽しんでもらう「かなで奉納」（入場無料、申し込み不要）が開催されます。

（奈良まほろばソムリエの会 増田優子）